

教員免許状更新講習 選択講座4（令和元年8月21日（水）9：00～10：30）

「[国際理解教育] 文化から見る国際社会の理解～文化外交、クール・ジャパン／開催迫る2020東京オリンピック・パラリンピック

武蔵野学院大学 佐々木隆

講習目的

開催迫る2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、発信型の国際理解として特にクール・ジャパンを取り上げた。クール・ジャパンはDouglas McGray “Japan’s Gross National Cool”（2002）として発表され、その後、日本政府はクールジャパン政策を新たに打ち出している。マッグレイの掲げた「クール・ジャパン」は「クールジャパン政策」となると、大きな違いが生じている。（表記も異なる）そもそもクール・ジャパンとは何であったのか、また、日本の魅力とは何なのかを国際理解、総合的な学習の時間の教材としての可能性も探ることとした。なお、オリデジャネイロ・オリンピックのフラッグオーバー・セレモニーの様子なども映像をはじめ、文化外交を端的に表現した絵本などを含めて多くの事例を提供し、具体的な教材として利用できることを目的とした。

講習内容

講習担当者として準備したものとしては講習の資料はAサイズ全38頁+13頁（パワーポイント縮刷版）を印刷したものを配布した。この分野の講習は2015年より担当していることや大学では教職課程を担当し、「国際文化交流」や「ポップカルチャー論」、「総合的な学習の時間の指導法」の担当であることも紹介した。

講習の内容はおもに次の4点で進めた。

- 1 国際理解と教育
- 2 リオ・オリンピック閉会式（映像含む）
- 3 オリンピック・パラリンピックについて
- 4 日本のポップカルチャーの魅力

「1 国際理解と教育」については日本で行われた国際的なイベントとの関係やユネスコ等による動きが大きく影響していることを紹介した。具体的には「国際理解と国際協力のための教育」（1954）と「国際理解、国際協力、および国際平和のための教育と人権と基本的自由についての教育に関する勧告（国際教育勧告）」（1974）とユネスコが採択しているものの日本の学習指導要領に反映されたのが1979年の学習指導要領の改訂の中で「国際理解」がやっと謳われたことを振り返った。世界から遅れること25年である。高度経済成長期では教育が経済大国への道を歩んだものの、教育や文化では立ち遅れたことになる。1989年の中央教育審議会（以降、中教審）や臨時教育審議会の答申を受けて、幼稚園から

高等学校までの学習指導要領の改訂を初めて同時に行い、「国際理解」が日本の教育界の4大柱のひとつになった。僅か30年前のことである。1997年には中教審「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（第二次答申）では、国際化への注目、総合的な学習の時間よりも「ゆとり教育」への話題が集中してしまったのである。世の中は2007年のiphoneの登場により、SNSが一気に進んだ。奇しくもインターネットの登場により国際化は格段に進み、コミュニケーションではさらに国と言う枠組みや国境を意識しないグローバルな時代が実現してしまった。1997年以降では「総合的な学習の時間」では本来は少子高齢社会を反映した内容が盛り込まれるべきところが、アクティブラーニングやAIの社会への進出が急速に進んでいることを受けて教育が目指すものが当初と変わってきたのである。2009年の高等学校学習指導要領の改訂では「総合的な学習の時間」では「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと」「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること」（下線部が追加）など新しい方向性が示された。2019年には大学の教職課程が見直され、「総合的な学習の時間の指導法」が必修科目として設置されるなど、新しい動きもあった。また、2018年に発表されたOECD (Organisation for Economic Co-operation and Development)の“The Future of Education and Skills Education 2030”も最後に触れた。

「2 リオ・オリンピック閉会式」では昨年の講習と同様に映像を交え、リオデジャネイロ・オリンピック閉会式に続いて行われた引き継ぎ式では日本のアニメやゲームのキャラクターをメインにして、ポップカルチャーを全面に押し出していたことに注目した。

中東でのPKO活動で給水車にラッピングされた「キャンプテン翼」、外務省のアニメ文化大使となった「ドラえもん」、ユニセフ親善大使を務めた「ハローキティ」、世界のゲーム100本にも選ばれた「パックマン」、リオデジャネイロのリオとの共通から点から出番が来た「スーパーマリオ」に注目した。「キャンプテン翼」、「ドラえもん」についてはそれぞれ外務省HPより写真等がアップされているため、官公庁のHPの活用についてもふれ、理解を深めてもらった。また、ポップカルチャーだけでなく日本の伝統文化をアピールした事例として1998年の長野冬季オリンピックでの開会式なども映像も紹介した。特に日本の伝統文化をどのようにしてセレモニーに生かしているのかなどに注目してもらった。長野冬季オリンピックでは国歌を雅楽で演奏し、聖火の点灯者の伊藤みどりもこれに合うような十二単衣の衣装であった。

「3 オリンピック・パラリンピック」では2020年に向けた国内の動きについて着目した。ポイントになるのは2点ではないかと指摘した。第1点は「D&I」、すなわち Diversity & Inclusion である。多様性とこれを受け入れる包括である。講師としては運営を含め、オリンピックよりもパラリンピックがどの程度盛り上がるかが大きな鍵ではないかと取り上げた。自国開催であるが、豊洲問題をはじめ、ロゴの問題に至るまで、決して順調には進んでいない。セレモニーの担当者に来栖良依が加わったことはパラリンピックを意識したものと考えられるが、まだまだ未知数である。これまでのTV放映の在り方

をみても、パラリンピックは民放ではほとんど放映されていない現状は、スポンサーや利益・視聴率重視の方向から言えば、これを無視することはできないが、マスコミ自体の変化は国民に与える影響は大きい。

これまで高等学校での模擬授業で使用したオリンピック・パラリンピック+スポーツクイズ 28 題を実施した。その中で特に受講者の印象に行ったのは以下の出題であったようだ。言葉としてパラリンピックについては「パラってなんでしょうか？」と言う問いについては受講者が講師の解説を待っていた。

→パラプレジア paraplegia

脊髄（せきずい）を損傷した人、半身不随（はんしんふずい）者。体が不自由な人のリハビリを兼ねたスポーツの大会でした。

当然、パラリンピックの出場者は現在では異なっている。すなわち、「パラ」の意味が変わってきたということだ。

以前は脊髄（せきずい）を損傷した人、半身不随（はんしんふずい）者だけが参加していたが、障がいを持った人はまだまだほかにいることから、障がい者がみんな出場できるような大会へと変わっていった。

パレプレジア(paraplegia)からパラレル(parellel)へ

スキーのパラレルはスキー板を並行にしてすべる姿勢。また、パラレルワールドはファンタジーでよく使われるが、同じ時間に存在する別の世界（異世界）のことを言います。健常者と障がい者が共に競技することはないが、別の大会でそれぞれ4年に1度スポーツの頂点を目指す大会へと変わった。

その後、パラリンピックの原点として、戦争で負傷した兵士たちのリハビリテーションとして「手術よりスポーツを」の理念で始められたことを紹介した。当時は病院名からストーク・マンデビル競技大会と言われた。1948年のことだ。さらに最初の実施された競技がアーチェリーであったことも紹介した。1948年7月28日に車椅子使用入院患者男性14人、女性2人によるアーチャー競技大会が行われたことが最初である。1960年のローマ大会が第1回パラリンピックとされている。(IOCは直接関与していません) IOCが直接係わるようになったのは1988年のソウル大会で、以降、正式にパラリンピックの名称が使用されるようになる。その意味ではまだ30年程度の歴史しかないことなることも確認した。

近代オリンピックの父とも言われるフランス人のピエール・ド・クーベルタン(1863～1937)はオリンピックの精神として採り入れたかった原点はイギリスのパブリック・スクールでのスポーツ精神であった。それまでのフランスでの教育は服従型のものであったが、

クーベルタンはこれに大きな疑問を思っていた。スポーツを通して自分でものごとを考えて進める、対処するやり方にクーベルタンは活路を見出したのである。ラグビーやサッカーでは試合が始まってしまえば、試合の途中で監督（先生）が直接指示を出すことはできない。また、次のような問題も出題した。サッカー、ゴルフ、テニス、ホッケー、バレーなどの中でゴルフとサッカーだけが異なっています。それは何故でしょうか？具体的には「Q12 ゴルフは何が異なっているのでしょうか。何かがありません？」という質問である。受講者はしばらく考えてから、「審判」という応答があった。これがスポーツマンシップ、フェアプレー精神の原点であることは明らかだ。もともとは紳士のスポーツとして誕生した背景もある。「Q13 サッカーでは特に昔からの名残があるのですが、それは为什么呢？」という質問。これには選手と監督の写真をヒントに見せた。パブリックスクールの名残りが残っている。野球などは選手、コーチ、監督はいわゆるユニフォームを着るが、サッカーでは監督はユニフォームは着ない。これはパブリックスクールの名残りであり、監督はいわゆる先生であり、競技者ではないため、ユニフォームは着ないのである。似たような例としてラグビーも同様である。

オリンピックの精神は強靱な肉体を求める「ギリシアの精神」、パブリックスクールで育ったスポーツマンシップ、フェアプレーに代表される「イギリスの精神」が近代オリンピックに持ち込まれたのである。そして、現在のオリンピックは伝統や階級に囚われない精神、すなわち「アメリカの精神」が持ち込まれたのである。

後半ではオリンピック憲章の一部を紹介した。

6. このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。

これは本当に守られているのであろうか。現実的にはオリンピックは政治的配慮、国際関係などが大きく関係しているのである。日本かつて経験しているが、オリンピックのボイコットなどはまさにこれに当たる。

オリンピック競技大会は、個人種目または団体種目での選手間の競争であり、国家間の競争ではない。大会には NOC が選抜し、IOC から参加登録申請を認められた選手が集う。選手は当該 IF の技術面での指導のもとに競技する。

これについても国として金メダルを〇個目指す、国別金メダルランキングなどを発表しているのは明らかにオリンピック憲章に反するのではないかとの問いかけを行った。個人の思いはともかく、国が政策としてオリンピックに取り組むのはそもそもオリンピック憲章

に反するのではないかと思えるのだ。かつてNHKがオリンピックについてその効果について第1の理由として「国家発揚」をあげたが、オリンピック憲章をどう考えているか疑問であることにも触れた。考え方としてオリンピック憲章自体が現実には合わなくなっていることもあるかもしれないなど、私見も交えたが、受講者も熟考していた。最後に「Q28 競技数と種目数はそれぞれどのくらい？」でははっきりした数字を解答してもらうことを期待していたのではなく、競技と種目の考え方などを整理してほしいことを期待した。

2020 東京オリンピック	競技数	33	種目数	339
2020 東京パラリンピック	競技数	22	種目数	540

世間では新しい競技として「スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン、空手」が加わったことに関心が向いているが、パラリンピックは障害により種目分かれるため、オリンピックよりも種目数が格段に多くなっていることに関心が向いていないことも紹介した。また、聴覚障害者のスポーツについては、デフリンピックで行われているため、パラリンピックではその競技がないなど、パラリンピックに関する理解はあまりにも薄いことなども紹介した。なお、オリンピック関係については講師所有の2020東京オリンピック・パラリンピックのグッズ等を展示した。

「4 日本のポップカルチャーの魅力」では、昨年同様にイベントとして3日間で50万人以上動員するコミック・マーケット（2019年と2020年は4日間開催）、官公庁も主催者側に参画している世界コスプレサミット（名古屋開催）、政党も展示参加するニコニコ超会議、今後の動向を注目すべきeスポーツとWHOが提唱するgaming disorder（ゲーム障害）なども紹介した。

過去3年間のコミック・マーケットの来場者数などを示した。

2016年8月12日～14日	約53万人
2016年12月29日～31日	約55万人
2017年8月11日～13日	約50万人
2017年12月29日～31日	約55万人
2018年8月10日～12日	約53万人
2018年12月29日～31日	約55万人

なお、2019年8月の来場者数は4日間で70万以上であった。55万人あるいは70万人という人数を認識するために近隣の2018年の人口を示した。

狭山市	151,945人（2018年7月1日）	飯能市	79,931人（2018年7月1日）
入間市	148,455人（2018年7月1日）		

日高市 56,187人（2018年7月1日） 川越市 353,017人（2018年7月1日）  
あきる野市 80,896人（2018年8月1日） 立川市 183,191人（2018年7月1日）

ニコニコ超会議の第2回目以降の後援に経済産業省や総務省等が入っていることについては、コンテンツ産業の台頭や18歳選挙権の影響についても取り上げた。第1回ニコニコ超会議は2012年4月28日～29日。以降、4月下旬に2日間程度で実施されている。2日間の来場者は約15万人程度である。その背景として2012年4月19日に公職選挙法の改正によりインターネット選挙運動が解禁、2016年6月19日に公職選挙法の改正により選挙権が18歳からとなるなど、政府や政党もSNSの力を無視できなことを実感し始めたのではないかと指摘した。

マンガ、アニメ、ゲームは日本のポップカルチャーを代表しているが、ダグラス・マッ格雷イの主張の通り、ソフト・パワーとしての一面を持っており、日本はこれをブランド化し、国家ブランディングの戦略に入っている。クール・ジャパンについては文化外交として外務省が進めてきたが、現在では経済効果を優先させて、経済産業省・内閣府が推進しているが、外国人がもともと考えていた「かっこいい日本」ではなく、「日本が海外に売り出したいもの」に「クールジャパン」と冠をつけている側面が強く見られる。これには観光立国を目指す戦略や少子高齢社会により外国人に消費拡大を求めている政府の考え方が背景にあることも紹介した。クール・ジャパンは実は生活に密着しており、時間指定の宅配便、乗降時傾くバス、駅探や駅ナビのアプリ、ラッシュアワーでも過密なタイムスケジュールで運行する電車など、時間を守ろうとする日本人ならではのサービスである。海外では時間通りに物事が運ぶということ自体がなかなかできないことで、海外旅行に行けばこうした事態に遭遇することは珍しいことではないだろう。また、食品サンプルをはじめ、写真付きのメニューなどもまさにクール・ジャパンと言っていいだろう。日本人では当たり前のことが、海外では実現できないことも多く、そのことが却って外国人からの指摘であらためて日本の良さを知るという逆輸入現象にもなっているのだ。こうした文化の力は大きな視点からみれば、ソフト・パワーとなり、政策面では文化外交（public diplomacy）と呼ばれ、日本でも発信型の政策として積極的に行われているのである。

#### 講習内容の自己分析

受講者の修了試験では「本来のクール・ジャパンと政府のクールジャパン政策」の違いについてははっきりと認識している記述が多く見受けられたが、これがまさに講習の目的であったことから、講習の核となる部分は受講者が理解し、講習も目的は達成されたものと確信する。オリンピックやパラリンピックの本来の意味も理解してもらい、こうした国際的なイベントの中で日本の魅力の発信のひとつとしての伝統文化に加え、ポップカルチャーについても今後も注目すべき内容であると確信した。来年の2020東京オリンピック・パラリンピックの状況をよくとらえておきたいことは講師と受講者で共有できた。

令和元（2019）年度 教員免許更新講習 講習録

令和二（2020）年 3 月 31 日発行

編集発行： 武蔵野学院大学

武蔵野短期大学

〒350-1328 埼玉県狭山市広瀬台三丁目 26 番 1 号

電話 04-2954-6131（代）

<http://www.musa.ac.jp>

Published by MUSASHINO GAKUIN UNIVERSITY

MUSASHINO JUNIOR COLLEGE

3-26-1 Hirosedai, Sayama-shi, Saitama, 350-1328 Japan

教員免許状更新講習 選択講座6（令和元年8月23日（金）9：00～10：30）

「身近な英語で教材作成 [英語文学] ～文学・映画・アニメ・スピーチ～」

武蔵野学院大学 佐々木 隆

### 講習目的

中学校及び高等学校教諭を対象とし、英米文学史を振り返ると共に、アニメやマンガのキャラクター名が英語で表記されている様々なもの、ノーベル賞受賞に関する英語スピーチや彼等の英語の作品について、教材作成といった観点から紹介した。また、新たに英語になった日本語、ポップカルチャーを利用した英語語彙の増強にどう役立つかに焦点を当てた。こういったことが現場でどのように生かせるかを考察しながら、多くに事例を提供することを目的とした。

### 講習内容

講習担当者として準備したものとしては講習資料『教員免許状更新講習 身近な英語で教材作成 [英語文学] ～文学・映画・アニメ・スピーチ～』（A4サイズ全132頁）＋「パワーポイント資料縮刷版」（29頁）を印刷したものを配布した。その目次は以下の通りである。

#### はじめに

- 1 イギリス文学史とイギリス文化
- 2 アメリカ文学史とアメリカ文化史
- 3 マンガ／アニメを利用した英語教材研究
- 4 英語になった日本語
- 5 マララ・ユフスザイ
- 6 ボブ・ディランのノーベル賞受賞コメント
- 7 ノーベル賞文学賞受賞、カズオ・イシグロ

#### おわりに

「はじめに」において講師自身の自己紹介も兼ね、中学校・高等学校の現場で英語教員をしていたこと、その後、短期大学、大学、大学院で英語を教え、現在に至り、大学では教職課程を担当し、英米文学をはじめ、ポップカルチャーを活用した教材研究について取り組んでいることを紹介した。

講習を始めるにあたり、「ポイントを自分で設定してみては？」との問いかけを行った。

- 1 実際の授業で使える例文を中心にしてみる
- 2 英語圏文化についての興味等を深めてみる



- 3 児童・生徒が関心を寄せているものに目を向けてみる
- 4 英語に拘らず、「総合的な学習の時間」の教材の観点から考える

内容として注目したことは4つある。第1から第についてもここ数年指摘したことであるが、第4については今年初めて取り上げた。

第1に映画化された英米文学作品である。まず、時系列に英米文学（文化史）を映画化された英米文学作品を中心に紹介した。

第2に英米文学とロボット（人造人間）である。メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』（1818、イギリス文学）から200年、アイザック・アシモフ『われはロボット』（1950、アメリカ文学）では創造主を越えた力を持った創造物（怪物）への恐怖心を表現したフランケンシュタイン・コンプレックスを発表したことなどを紹介した。AIと人間の共存について日本では『鉄腕アトム』（1963、TVアニメ放映開始）、『ドラえもん』（1973、TVアニメ放映開始）といったロボットが印象的であるが、西洋では人間に恐怖を与えたのがロボット（人造人間）であり、日本では人型ロボット（人造人間）は人間の友達、仲間といった印象が強く根付き、欧米とは違ったロボット観が形成されたのではないかと投げかけた。

第3にネオファンタジーである。特にハーフブラッド（混血）のテーマを取り上げた。人間と神、人間と妖怪、人間と魔法使い、人間と人間以外の何物かとの交わりである。この原点はブラム・ストーカー『ドラキュラ』（1898）である。ドラキュラにかまれた人間はドラキュラ化していくことは血の強さの象徴でもある。J.K.ローリング『ハリー・ポッター』シリーズ（1997-2016）は魔法使いの父とマグル（人間）の母との間に生まれたハリーにボルデモートの力が宿り、最終的にはこの闇の力の持ち主との対決を友達と共に制することになる。ダレン・シャン『ダレン・シャン』（2000～2006）もバンパイヤとなった友達を助けるために自らハーフ・パイパイヤとなるストーリーである。リック・リオーダン『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々』シリーズ（2005～2009）ではギリシア神話の神々の血を引くデミゴッドと呼ばれる子ども達が登場する。このハーフ・ブラッドは単なるファンタジーとして片づけるわけにはいかず、その背景には民族問題が隠れていることも紹介した。日本ではTVアニメ『幽遊白書』、『犬夜叉』をはじめ、アニメ映画『崖の上のポニョ』、『おおかみこどもの雨と雪』など人間と妖怪、人間と魔物、人間と動物のハーフ・ブラッドの設定のストーリーはそれほど奇異ではない。

第4に特に映画界では2013年以降、BLM（Black Lives Matter ブラック・ライヴズ・マター）の動きもあり紹介した。例えば、ハロルド・グレイ『アニー』（アメリカ、初演、1977）の主演アニーも黒人の女優が演じるだけでなく、ディズニーの実写映画でも顕著である。

「マンガ／アニメを利用した英語教材研究」ではポイントとして次の3点を示した。ここ数年同じようテーマで内容を更新しながら取り上げているが、受講生からは毎年好評で

あったことから今年も取り上げた。

- 1) 身近なカタカナが実は英語、あるいは英語から派生していることから、語彙の増強に役に立たないか？
- 2) 児童・生徒への興味喚起にならないか？
- 3) 横断的、探求的、総合的な観点から総合的な学習の時間の教材にならないか？

さらに難しいことは、教材も市販されているものを活用するのか、それとも自主作成のものを用意するかだ。前者は探しあてる手間にかかるものの教員の負担は軽くなる。半面、自主作成のものは時間的な負担も大きくなるが、自分が生徒に伝えたいものはストレートに教材に反映させることができる大きな利点がある。しかし、この分野の教材は教員自身が単に英単語だけを知っていても十分な説明ができない。マンガやアニメの設定と使用されている英語との関連が重要なのである。可能であれば、図像・写真などが伴うことで効果が倍増される。

最初に紹介したのは『のだめカンタービレ』(*Nodame Cantabile*)では、日本の敬称の「〜くん」「〜さん」「〜ちゃん」「〜先輩」について冒頭に“Honorifics Explained”があり、例えば以下のような説明がある。

-kun: This suffix is used at the end of boys' names to express familiarity or endearment. It is also sometimes used by men among friends, or when addressing someone younger or of a lower station.

-chan: This is used to express endearment, mostly toward girls. It is also used for little boys, pets, and even among lovers. It gives a sense of childish cuteness.

(Ninomiya, Tomoko. Walsh, David and Eriko, translators. *Nodame Cantabile*, Ballantine Books, 2002)(頁表記なし)

このあとはパワーポイントにてこれまで実際に小学生、中学生、高校生、大学生、一般社会人、過去の教員免許状更新講習受講者、学会で発表し、研究者を対象に活用したものを抜粋して、クイズ形式として体験してもらった。事例の紹介については昨年の講習内容を活用し、適宜追加した。

カカロット（孫悟空のももとの名前。いつも赤い胴着を着用）はキャロット(carrot)を連想させる。もちろんそれはニンジンから由来する。サイヤ人（ヤサイ）から来ている。父親はバーダック (burdock) であるが、これは日本では「ごぼう」である。英語版の *Dragonball* では *bardock* となっている。もともとサイヤ人なのだから、名前は野菜で統一されていることになる。融合合体技は「フュージョン」と言われるが、これは英語 fusion そのままだ。登場人物では人造人間セルが登場するが、「セル」とは英語 cell のことであ

る。日本語では「細胞」を意味する。これまでの戦士たちの細胞を集めたドクター・ゲロが造った人造人間である。その生成過程と名前が一致する。また、悪の権化とも言えるフリーザについても次のようなことが言えることを示した。

フリーザ	freeza	→	freezer	冷凍庫	冷たい心を持つ悪人
コールド	korudo	→	cold	冷たい	フリーザの父
クウラ	kuura	→	cooler	より涼しい	フリーザの兄

3人の中で一番強いのは当然「フリーザ」となることは一目瞭然である。

フロスト	furosuto	→	frost	霜	フリーザに似た第6宇宙人
------	----------	---	-------	---	--------------

フロストはフリーザよりも当然弱い。このような例は多く見られるが、キリスト教文化圏という文化背景を理解し、さらに発想のオリジナルがドイツ文学にあるアニメ『鋼の錬金術師』は興味深いものがある。荒川弘による日本のマンガが原作である。ここには7人のホムンクルスが登場するその名前と英語は以下の通りである。

プライド	Pride	「傲慢」の名前をもつ人造人間
ラスト	Lust	「色欲」の名前をもつ人造人間
グリード	Greed	「強欲」の名前をもつ人造人間
エンヴィ	Envy	「嫉妬」の名前をもつ人造人間
スロウス	Sloth	「怠惰」の名前をもつ人造人間
グラトニー	Gluttony	「暴食」の名前をもつ人造人間
ラース	Wrath	「憤怒」の名前をもつ人造人間

ホムンクルスはワグナー博士が作った人造人間であるが、この設定はこのアニメのオリジナリティではない。この設定はゲーテ『ファウスト』においてワグナー博士が作ったまさに7人のホムンクルスなのである。ではなぜ7人なのか。それはホムンクルスの7人の名前はキリスト教の七大悪（the Seven Deadly Sins）のことである。なお、鈴木央『七つの大罪 The Seven Deadly Sins』（2012年から連載開始）（マンガ）もTVアニメ化もされたことも紹介した。

アニメのキャラクター名と英語となれば、『ポケットモンスター』をはずすことはできない。

リザード	連想されるもの	とかげ	lizard
ピジョン	連想されるもの	鳩	pigeon

クラブ	連想されるもの	カニ	crab
ギャロップ	連想されるもの	馬	gallop 「馬などが走る、疾走する」
ボルケニオン	連想されるもの	火山	valcano

また、カードゲームでもゲーム中で宣言する用語がある。

ゲート・オープン	open the gate	ゲームを開始することを宣言する時に用語
バトルフィールド	battlefield	ゲームの場面設定。戦う場所。
ドロー	draw	カードをひきこと
ターン	turn	順番
ターン・エンド	turn end	自分の番が終了すること
インターセプト	intercept	途中で抑える、遊撃する

特に“turn”は動詞ではすぐに習うものの、名詞で習うのは意外に遅い。しかし、コミュニケーションを重視するのであれば、「私の番ね」(It's my turn.)はすぐにでもマスターできる表現である。英語そのものがカタカナで利用されている場合もあるが、連想されて利用されていることもある。「ギャロップ」は「馬が疾走する、走る」という英語の gallop をキャラクター名としているようなものもある。インターセプト(intercept)などは英語としては高等学校レベルであるが、小学生がゲームを通してこの単語を知っていることになる。児童や生徒が日常的に触れているものの中に英語の表現がかなり入り込んでいるため、こうしたことに着目してみるのもひとつの教材研究であることを示した。

「英語になった日本語」では2011年以降の更新講習で、2010年に初めて英語の紙辞書 *Oxford Dictionary of English* (2010)に“hikikomori”が収録され、その英語を受講者にも確認してもらっている。特にその定義の中で“typically by adolescent males”となっていること、また、“bento”の定義でも“a Japanese style packed lunch, consisting of such items as rice, vegetables, and sashimi”となっているなど、日本理解が進んでいるように進んでいない一端を紹介した。「ひきこもり」は「おもに男性」などといういまだに官崎勤事件の余波を感じさせるような記述が残っていることはきわめて残念なことだ。また、フランスを中心にした弁当ブームでも、結局は日本の食文化について理解が進んでいないこと、(下線部は筆者が問題視した部分) sashimi と sushi の混同が見られることなど、決して辞書がすべて正しいわけではないことなども紹介した。単語一つからでも様々な異文化理解の一端が伺えるのである。また、すでに“anime”“manga”“cosplay”などもすでに英語になっているものの、その定義をみれば、英語文化圏の人達の理解の仕方がわかることなども紹介した。筆者はできるだけ新しい辞書、特に英英辞典が発行された際に日本関係の記述の内容は定義についてチェックしているが、こうした教材研究にはかなりの時間を要することなども付け加えた。教員の多忙化と教材研究や授業の工夫は一朝一夕にはいか

ないことなども、自身の経験を踏まえて伝えた。

講習の後半では、ここ数年取り上げている原文から翻訳、あるいは英文理解の観点から「マララ・ユフスザイ」ではマララの自伝での原文と翻訳をしながら、教材にした場合のポイントを示した。

I come from a country that was created at midnight. When I almost died it was just after midday.

One year ago I left my home for school and never returned. I was shot by a Taliban bullet and was flown out of Pakistan unconscious. Some people say I will never return home, but I believe firmly in my heart that I will. To be torn from the country that you love is not something to wish on anyone. (The Day My World Changed from *I Am Malala*, 2013, p.3)

わたしは、真夜中につくられた国生まれ育った。瀕死の重傷を負ったのは、正午をほんの少しすぎた頃。

一年前のある日、私は学校に行って、それから家に帰っていない。タリバンの銃弾を頭に受けて、意識を失ったまま、パキスタンからイギリスに運ばれた。私が生きて故郷に帰ることはないだろうという人もいるけど、わたし自身は、いつかきっと帰れる日が来ると信じている。愛する祖国から引き離されたまま生きていかなければならないなんて、だれにとっても耐えがたいことだ。(マララ・ユフザイ／金原瑞人＋西田佳子訳『わたしはマララ』学研パブリッシング、2013年12月、12頁)

補足して「イギリスに」が加わっている。こうした配慮は教育上必要ではないかと思われる。講習は原文と翻訳を照らし合わせて読む機会がなかったようで、よい刺激になったようだ。

#### 講習内容の自己分析

英米文学が原作となる映画は宮崎駿監督『ハウルの動く城』、宮崎吾郎監督『ゲド戦記』、米林宏昌監督『借りぐらしのアリエッティ』『思い出のマーニー』『メアリと魔女の花』のアニメ映画があり、また、『アニー』、『雨に唄えば』、『メリー・ポピンズ』なども英米文学の映画化である。受講後、受講者との対話の中では日本文化をどう英語にするか、英語で表現するかが話題に上り、欧米の事典で表現されているものが必ずしも正しいものではないことを知ったことも新しい発見であったなどの感想が寄せられた。特に“bento”や“hikikomori”は誤った英語表現になっていることにはかなりの驚きであったようだ。講習以後、教育現場で講習の成果が生かされ、教材となるものがマンガ、アニメから映画に至まで溢れていることが提供でき、受講者が教材研究についてより身近に感じられたと確信する。

令和元（2019）年度 教員免許更新講習 講習録

令和二（2020）年 3 月 31 日発行

編集発行： 武蔵野学院大学

武蔵野短期大学

〒350-1328 埼玉県狭山市広瀬台三丁目 26 番 1 号

電話 04-2954-6131（代）

<http://www.musa.ac.jp>

Published by MUSASHINO GAKUIN UNIVERSITY

MUSASHINO JUNIOR COLLEGE

3-26-1 Hirosedai, Sayama-shi, Saitama, 350-1328 Japan